



# 和太鼓グループ彩 -sai-

わだこ さい さい  
 和太鼓グループ -sai-  
 とうきょうだいがくにて、だいがくのサークルとしてかつどうを開始しました。  
 だいがく卒業後は一般企業に就職したものの、ゆめをあきらめず、2013年、会社を退職しプロとしてかつどうを開始。

プロになってからは、わだこのみならず、  
 しのだい のうかん さまざま わがつき わがつき えんぞうしゅうだん しんか  
 篠笛や能管・チャッパなど様々な和楽器を用いた和楽器の演奏集団へと進化。

どくとく けいれき い ざんしん わだい よ ねん ぜんこく じっし  
 独特の経歴を活かした斬新なパフォーマンスが話題を呼び、2015年、全国ツアーを実施。  
 ねん すだ まさきしゅえんえいが ていしん だいてい さいごう  
 2018年、菅田将暉主演映画「帝一の國」にてフンドシ太鼓シーンの総合プロデュースを担当。

あさひ しゅつえん  
 テレビ朝日「ミュージックステーション」への出演。

ねん にほんたいかいにて、  
 けつしやうじゆんけいしやう ぜん しあい せんしゆにゆつじやうえんぞうつと  
 決勝・準決勝をはじめとして全6試合で選手入場演奏を務め、

ねん えぬえいしけい たいが かまぐらどの にん げきばん  
 2022年には、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」劇伴のレコーディングに参加など、  
 かずおお しゅつえん  
 数多くのメディアやイベントに出演しています。

ねん かいがいこうえん ほんかくてき かいし  
 また、2015年からは海外公演も本格的に開始。  
 がいしゆしやうしゆきかいがい こくいじやう こうえん おこな ほか  
 外務省主催海外ツアーを始め、31カ国以上にて公演を行ってきた他、2017年イタリアにて、セリエA  
 「ローマ vs ユヴェントス」の試合前に演奏を実施、日本を代表する和楽器集団へと進化を続けてきました。

たの ひび でんどうてき ぶんか そつぽう  
 「楽しいが響きわたる！」をテーマに、伝統的な文化や奏法にもとづいた  
 わだこ わがつき えんぞう たの おんがくかつどう とど  
 和太鼓をはじめとする和楽器の多様な演奏や楽しい音楽活動をお届けします！

れい わ ねん ど  
 令和5年度

## — 学校巡回公演事業 —



たの ひび  
 楽しいが響きわたる！  
 わ がつき そごう けいじゆつ かんしやうかい  
 和楽器の総合芸術鑑賞会

# 和太鼓グループ彩 -sai-

がっこう じゆんかい こう えん じ ぎやう  
 「学校巡回公演事業」

しょうがっこう ちゆうがっこうとう ぶんか けいじゆつだんたい じつえんげいじゆつじゆんかいこうえん おこな こども しつ たか ぶんか  
 小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化  
 げいじゆつ かんしやう たいけん 機会 かく けい こども ぬた そろそろりよく そろそろりよく しじやうりよく  
 芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケー  
 ション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的とし  
 ています。

こども じつえんしじやうまた かんしやうしじやう おこな じつえん こども  
 ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たち  
 が参加できる工夫を行います。



文化庁

舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)  
 独立行政法人日本芸術文化振興会

# はじめに

日本の太鼓「和太鼓」は日本の伝統的な打楽器です。和太鼓は、時代に合わせ、様々な役割を担ってきました。時には、情報伝達手段として、時には、時間を伝える時計として、時には、音楽を奏でる楽器としての役割を持ち、時代を超え、人々に愛されてきました。

これから目の前で繰り広げられる和太鼓の演奏は、「組み太鼓」と言われるもので、約60年前に誕生した新しい演奏形式です。日本各地に伝承される様々な和太鼓の奏法やリズムからなるアンサンブルを、目で見て、耳で聴いて、音の振動を体で感じてください。

どこか懐かしい日本の郷土の音をどうぞ、お楽しみください。



みや だいに  
宮太鼓

神社やお寺で使われていたことから、「宮太鼓」と呼ばれます。

胴には、ケヤキなどの硬く強度のある木が使われています。

一本の木をくり抜き、その両面に皮を張り、金属でできた鉞で留めています。

お風呂の桶や味噌樽のような作りから「桶胴太鼓」と

言われます。胴の作りは、一本の木をくり抜いたもの

ではなく、杉・ヒノキなどの細い板を張り合わせて

できています。胴の両面に、金属のフレームで張った

皮をロープなどで引き伸ばして、音の高さを調整します。

# 楽器紹介



おけどう だいに  
桶胴太鼓



みやだいで どうよう  
宮太鼓と同様に

ケヤキなどの木をくり抜いた胴の両側に

鉄輪に張った革をロープやボルトを

使って、強く締め上げています。

甲高い音が鳴ることが特徴です。

# 和太鼓の歴史

では、「和太鼓」はいつ誕生したのでしょうか？

その歴史は古く、縄文時代(人々が竪穴式住居に住み、土器を作り、狩や漁をして暮らしていた時代)のころから日本に存在したと言われています。

縄文時代～古墳時代には、お祈りや情報伝達の手段として和太鼓が使われていたと考えられています。実際に、長野県の遺跡からは、動物の皮を張って太鼓として使用されていたと考えられる土器が見つかっています。

聖徳太子が活躍した飛鳥時代には、「時」を知らせる道具として使われていました。

貴族たちによって日本の伝統的な文化が生まれた平安時代には、「雅楽」という日本の宮廷音楽の中で使われるようになりました。さらに、その音量の大きさから、戦での情報伝達や味方を鼓舞する「陣太鼓」としても使われ始めました。

その後、室町時代には「能楽」、江戸時代には「歌舞伎」・「長唄囃子」という古典芸能の中で使われるようになります。また、時を知らせる時報や相撲や芝居、お祭りの音楽である祭り囃子や盆踊りなど、人々の生活の様々な場面で、和太鼓が使われるようになりました。

歴史を振り返ってみると、和太鼓は日本の歴史と密接に結びつきながら、発展してきたことがわかります。



つけしめ だいに  
附締太鼓

日本のお祭りや神具として使われる

伝統的な金属性の楽器です。高い音が出るので、

楽曲にアクセントを加えることができます。

また、奏法の変化による音の違いをお楽しみください。



チャップパ



しのぶえ のうかん  
篠笛・能管

日本の伝統的な横笛です。

竹に穴を開けた簡素な作りをしています。

また、能管は、「ノド」と呼ばれる竹製の筒が

中に入っており、独特な音色が生み出されます。

和太鼓と合わせて演奏されることが多く、旋律を奏でます。